

三歌経のカノン 大斎第一週

第1週月曜日

第1歌頌 (イズライリ人の歌句、エジプトを出ずる記15: 1-19)

誦経 主に謳わん、彼巖に光栄を顕したればなり、彼は馬と乗者とを海に投てり。

..... (中略)

アダムの糧を食らいしに、食欲彼を地堂より出せり、人を愛する主よ我等斎を受けし者を悔改に合う者と顕し給え。

(詠) [イルモス 2調] 人々よ、来たりて、海を分かちて、エジプトの奴隷より引き出しし民を過らせし ハリストス神に歌を歌わん、彼光栄を顕したればなり。

第1歌頌 イルモス



ひとびとや 来たりて 海を分かちて
エジプトの 奴隷より 引きだしし 民を通らせし
ハリストス かみに 歌を うたわん
彼光栄を 顕したれば なり

[小連絡] (斎調で)

輔祭 我等復又安和にして主に祷らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

(詠) 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光栄の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭 蓋爾は我等の神なり、我等光栄を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世々に、

(詠) 「アミン」

第8歌頌 (三少者の歌句、ダニイル3:57-88)

誦経 主の悉の造物は主を崇め讃めよ、彼を歌いて世々に讃め揚げよ。

..... (中略)

兄弟よ、主は四十日間齋して、今日の日を聖にして浄め給えり、我等此の日に至りて呼ばん、ハリストスを崇め讃め世世に讃め揚げよ。

(詠) 我等主を讃め、崇め、伏し拝みて、世世に歌い讃めん。

[イルモス] 昔火焰の中にエウレイの少者に露を注ぎ、奇異にしてハルデヤ人を其中に・きし 主を歌いて云わん、彼を崇め讃めて世世に讃め揚げよ。

第8歌頌イルモス



我等 主を崇め讃め 伏し 拝みて世々に うたいほめん

むかし ほのおの う ちに エウレイの少者に 露を

そそーぎ ハルデヤ人ーを 其の中に 焼きし主を

うたいて 云わん 彼を 崇め讃めて、世世に讃めあげよ

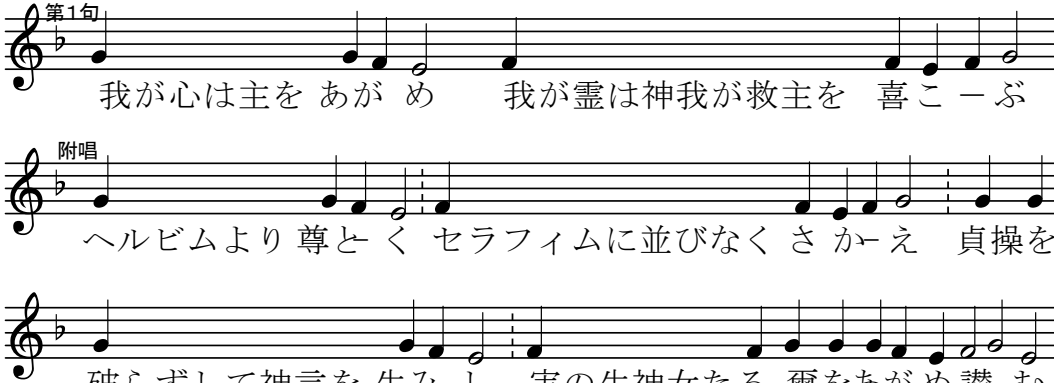
司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

我が心は主を崇め、我が ^{たましい} 霊は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

第1句



我が心は主を あがめ 我が霊は神我が救主を 喜こーぶ

附唱

ヘルビムより 尊とく セラフィムに並びなく さかえ 貞操を

破らずして神言を生みし 実の生神女たる 爾をあがめ讃む

第2句 その婢の卑しきを願^{かえり}み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

→ヘルビムより尊く

第3句 權能^{ちから}を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、

其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん

→ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、

心の驕れるものを散らし給へり、

→ヘルビムより尊く

第5句 權ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、

飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

→ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、

アウラアムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、

→ヘルビムより尊く

→第9歌頌へ

第9歌頌 (聖ザハリヤの歌句、ルカ1:68-79)

誦經 祝讃せらるる哉主イズライリの神其民を眷みて、之に贖を為し、我等の為に救いの角を其僕ダヴィドの家に興せり。

..... (中略)

地に生まれし者の生命は一日なりと曰へり、愛を以て労する者の為には四十日の齋あり、我等喜びて之を送らん。

(詠) [イルモス]我等信者は、父より永遠に光れる言を身にて計り難く孕みし者を、息めざる歌を以て崇め讃む。

第9歌頌イルモス

われら 信 - 者 は 父 より 永遠に光れることばを

身にて測り難く はらみしものを 息めざる歌を もって

あがめ 讃 - む

常に福にして (6調)

小連禱

第1週火曜日 5調

第2歌頌 (預言者モイセイの歌句、申命記32:1-43)

誦経 天よ、耳を傾けよ、我語らん、地よ、我が口の言を聴け。

..... (中略)

誰か火を滅し、誰か猛獣の口を塞ぎたる、斎即少者を爐より助け、預言者ダニイルを獅の口より助けたる者なり、我等兄弟も善く之を遇せん。

(詠) [イルモス] 見よ、見よ、我は神、己の旨を以て肉体を衣たる者なり、蛇の誘に依り罪に陥り しアダムを救わん為なり。



[小連祷] (斎調で)

輔祭 我等復又^{またまた}安和^{あんわ}にして主に祷らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を^{たす}助け救ひ憐み護れよ、

(詠) 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に^{おのおの}各の身を以て、并に^{ならび}悉く^{ことごと}の我等の生命^{いのち}を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭^{けだし} 蓋爾は我等の神なり、我等光榮を爾父と子と聖神^{いっ}に獻ず、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

第8歌頌 (三少者の歌句、ダニイル3:57-88)

誦経 主の悉の造物は主を崇め讃めよ、彼を歌いて世世に讃め揚げよ。

..... (中略)

富める者の食を厭いて、来たりてラザリと偕に斎せん、アウラアムの懷が我等をも温めん為なり。

(詠) 我等主を讃め、崇め、伏し拝みて、世世に歌い讃めん。

〔イルモス〕万物の造成主、諸天使の畏るる者を、人々よ、歌いて、萬世に崇め讃めよ。



第8歌頌のイルモスの後

司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

〔詠〕〔ヘルビムの歌〕

我が心は主を崇め、我が ^{たましい} 靈は神我が救主を悦ぶ。

〔附唱〕 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。



第2句 その婢の卑しきを願 ^{かえり} み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

→ヘルビムより尊く

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、

其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん

→ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、

心の驕れるものを散らし給へり、

→ヘルビムより尊く

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、

飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

→ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、
アウラムと其の裔を世に憐れむ事を記憶し給へり、

→ヘルビムより尊く

→第9歌頌へ

第9歌頌 (聖ザハリヤの歌句、ルカ1:68-79)

誦経 祝讃せらるる哉主イズライリの神其民を眷みて、之に贖を為し、我等の為に救いの角を其僕
ダヴィドの家に興せり。

..... (中略)

斎を以て祈祷の山に就きて、我等も潔き心にて神を見、モイセイの如く、誠の碑を懷に受け
て、神の愛の顔に由りて、光栄を以て輝かされん。

(詠) [イルモス] イサイヤ祝えよ、童貞女は孕みて、子エムヌイル、神及び人なる者を
生めり、 其名は東、我等彼を崇めて、童貞女を讃め揚ぐる。

第9歌頌



童貞女を さいわいなりとす。 常に福へ

常に福にして (6調)

小連祷

第1週水曜日 2 調

第3歌頌 (アンナの歌句、列王命記1:1-10)

誦経 我が心は主に縁りて喜び、我が角は我が神に縁りて高くなり、我が口は我が敵の上に開けたり、蓋我は爾の救いの為に楽しむ。

..... (中略)

ハリストスよ、我爾が十字架に釘せらるること、及び爾の神聖なる脇の刺さるることを歌う、我はより常に不死の飲料を斟みて聖せらる。

(詠) [イルモス] 木を以て罪を殺しし主よ、我等を爾の中に堅めて、爾を畏るる畏を我等
爾を歌う 者の心に植え給え。



【小連禱】 (斎調で)

輔祭 我等復又安和にして主に祷らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

(詠) 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人と
を記憶して、我等己の身及び互に 各の身を以て、并に 悉くの我等の生命を以て、ハリ
ストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭 蓋 爾は我等の神なり、我等光榮を爾父と子と聖神[°]に獻ず、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

第8歌頌 (三少者の歌句、ダニイル3:57-88)

誦経 主の悉の造物は主を崇め讃めよ、彼を歌いて世世に讃め揚げよ。

..... (中略)

ハリストスの十字架、盜賊を信に導きし者よ、我をも疲るるなく斎の途を行きて、来たりて
爾に伏拝し、生命を得るに堪うる者と為し給え

(詠) 我等主を讃め、崇め、伏し拝みて、世々に歌い讃めん。

[イルモス] 昔シナイ山に於て棘の中にモイセイに童貞女の奇跡を預め示しし者を尊み歌い、崇め讃めて、万世に讃め揚げよ。

第8歌頌イルモス



我等主を^{あが}崇め^ほ讃め^ふ伏し^{おが}拝みて 世々にうたい 讃めん。

むかし シナイ山に おいて、 いばらのうちに

モイセイに童貞女の奇跡を^{あらかし}預め示し しものを

尊とみ歌い 崇め^ほ 讃めて 萬世に^{ばんせい} 讃めあげよ

第8歌頌のイルモスの後

司祭 生神女光の母を^{ほめうた}讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

我が心は主を崇め、我が^{たましい}靈は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

第1句



我が心は主を あがめ 我が靈は神我が救主を 喜こーぶ

附唱

ヘルビムより 尊とく セラフィムに並びなく さかへ 貞操を

破らずして神言を生みし 実の生神女たる 爾をあがめ讃む

第2句 その婢の卑しきを^{かえり}顧み給へり、今より萬世我を福なりと^{よろずよ}言はん、

→ヘルビムより尊く

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、
其の名は聖なり、其の憐れみは世々 彼を畏るる者に臨まん

第4句 其の肘の力を表して、

→ヘルビムより尊く

心の驕れるものを散らし給へり、

→ヘルビムより尊く

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、

飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

→ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、

アウラアムと其の裔を世に憐れむ事を記憶し給へり、

→ヘルビムより尊く

→第9歌頌へ

第9歌頌 (聖ザハリヤの歌句、ルカ1:68-79)

誦経 祝讃せらるる哉主イズライリの神其民を眷みて、之に贖を為し、我等の為に救いの角を其僕ダヴィドの家に興せり。

..... (中略)

仁慈なる主よ、爾の十字架にて我をも固めて、我に斎の一周期を勇ましく終えしめ給え。

(詠) [イルモス]我等信者は皆潔淨無玷なる母童貞女を生神女として歌を以て敬虔に崇め讃む。



常に福にして (6調)

小連祷

第1週木曜日 5調

第4歌頌 (預言者アワクムの歌句、アワクム3:1-19)

誦経 主よ、我爾の風声を聞きて懼れたり、主よ、我爾の作為を悟りて驚けり。

..... (中略)

十二の使徒、神聖にして最尊き者よ、求む、我等の為にハリストスに祈りて、我等に疲なく四十日の程を度らしめ給え。

(詠) [イルモス]主よ、爾が摂理の作為は預言者アワクムを驚かせり、蓋爾は爾の救いの為に出で、爾の膏つけられし者を救わん為に臨めり。

第4歌頌



主よ 爾が 摂理の わー ざは 預言者 アワクムを
せつり 作為

驚か せ り 蓋、爾は爾の民の 救いの ために 出で

爾のあぶらつけられしものを 救わんために のぞめ り

[小連禱] (斎調で)

輔祭 我等復又安和^{またまた あんわ}にして主に禱らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

(詠) 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に^{おのおの}各の身を以て、并に^{ならび}悉く^{ことごと}の我等の生命^{いのち}を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭^{けだし} 蓋爾は我等の神なり、我等光榮を爾父と子と聖神^{いつ}に獻ず、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

第8歌頌 (三少者の歌句、ダニイル3:57-88)

誦経 主の悉の造物は主を崇め讃めよ、彼を歌いて世世に讃め揚げよ。

..... (中略)

使徒等よ、我等が潔淨の日を平安に終えんことを祈り給え、蓋我等呼ぶ、主の造物は主を崇め讃めよ。

(詠) 我等主を讃め、崇め、伏し拝みて、世世に歌い讃めん。

[イルモス]ハリストスよ、克肖なる爾の少者は爐の中に歌いて云えり、主の悉の造物は主を 崇め讃めよ。

第8歌頌

我等 神を 崇め讃め 伏し拝みて 世々に うたい 讃めん
ハリストスよ、爾の克肖なる 少者は いろりの
中に 歌いて 云 え り 主の 悉くの 造 ぶつは
主を あがめ ほめーよ

第8歌頌のイルモスの後

司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

我が心は主を崇め、我が 霊は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

第1句

我が心は主を あがめ 我が霊は神我が救主を 喜こーぶ

附唱

ヘルビムより 尊とく セラフィムに並びなく さかえ 貞操を
破らずして神言を生みし 実の生神女たる 爾をあがめ讃む

第2句 その婢の卑しきを願み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

→ヘルビムより尊く

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、

其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏るる者に臨まん

→ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、

心の驕れるものを散らし給へり、

→ヘルビムより尊く

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、
飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

→ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、
アウラアムと其の裔を世に憐れむ事を記憶し給へり、

→ヘルビムより尊く

→第9歌頌へ

第9歌頌 (聖ザハリヤの歌句、ルカ1:68-79)

誦経 祝讃せらるる哉主イズライリの神其民を眷みて、之に贖を為し、我等の為に救いの角を其僕
ダヴィドの家に興せり。

..... (中略)

使徒の会よ、爾を讃頌する者を救え、彼等を傷感の情を以て光を施す斎の悉くの日を送るに
任うるものと為し給え。

(詠) [イルモス]ハリストスよ、我等爾の至りて無・なる潔き母を崇め讃む、蓋彼は天性
に超えて、身にて爾我等を凡の誘惑及び腐敗より救う者を生み給えり。

第9歌頌

ハリストスよ、我等爾の至りて 無てんなる潔き母を

あがめ讃む 蓋、彼は天性に 超えて

身にて なーんじ われ等を 凡の誘惑及びほろびより

すくうものを 生みたまえり

常に福にして (6調)

小連禱

第1週金曜日 2調

第5歌頌 (預言者イサイヤの歌句、イサイヤ26:9-19)

誦経 我夜中我が霊にて爾を慕えり、晨より我が中心にて爾を尋ねん、

..... (中略)

世及び世に在る者に慶べよと陳べて、我等今ハリストスと偕に釘せらるるが如く、侮辱、及び其他を忍ばん、彼と偕に榮を得ん為なり。

(詠) 【イルモス】夜過ぎて日近づき、光は世界を照らせり、故に主よ、天軍は爾を歌い、万物は爾を崇め讃む。



【小連絡】 (斎調で)

輔祭 我等復又安和^{またまた あんわ}にして主に祷らん、

(詠) 主憐めよ

輔祭 神よ、爾の恩寵を以て、我等を助け救ひ憐み護れよ、

(詠) 主憐めよ

輔祭 至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各^{おのおの}の身を以て、并に悉^{ならび}く^{ことごと}の我等の生命^{いのち}を以て、ハリストス神に委託せん、

(詠) 主爾に

司祭 蓋^{けだし}爾は我等の神なり、我等光榮を爾父と子と聖神^{いつ}に獻ず、今も何時も世世に、

(詠) 「アミン」

第8歌頌 (三少者の歌句、ダニイル3:57-88)

誦経 主の悉の造物は主を崇め讃めよ、彼を歌いて世世に讃め揚げよ。

..... (中略)

ハリストスの帝笏、教会の角、諸王の勝利、ハリストティアニン等の守護たる十字架よ、爾は我を照らす者、爾は亦万世に我の誇る者なり。

(詠) 我等主を讃め、崇め、伏し拝みて、世世に歌い讃めん。

【イルモス】昔シナイ山に於て棘の中にモイセイに童貞女の奇跡を預め示しし者を尊

み歌い、崇め讃めて、万世に讃め揚げよ。



第8歌頌のイルモスの後

司祭 生神女光の母を讃歌を以て讃め揚げん。

(詠) [ヘルビムの歌]

我が心は主を崇め、我が ^{たましい} 霊は神我が救主を悦ぶ。

附唱 ヘルビムより尊く、セラフィムに並びなく栄え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。



第2句 その婢の卑しきを願 ^{かえり} み給へり、今より萬世我を福なりと言はん、

→ヘルビムより尊く

第3句 権能を持ち給へるものは、我が為に大なる事を為せり、
其の名は聖なり、其の憐れみは世世 彼を畏る者に臨まん

→ヘルビムより尊く

第4句 其の肘の力を表して、

心の驕れるものを散らし給へり、

→ヘルビムより尊く

第5句 権ある者を位より斥け、卑しき者を上げ、
飢うる者を善に飽かせ、富める者をむなしく帰らせ給へり。

→ヘルビムより尊く

第6句 其の僕、イズライリを納れて、我が先祖に告げしが如く、

アウラアムと其の裔を世世に憐れむ事を記憶し給へり、

→ヘルビムより尊く

→第9歌頌へ

第9歌頌 (聖ザハリヤの歌句、ルカ1:68-79)

誦経 祝讃せらるる哉主イブライリの神其民を眷みて、之に贖を為し、我等の為に救いの角を其僕
ダヴィドの家に興せり。

..... (中略)

仁慈なる主よ、爾の十字架にて我をも固めて、我に斎の一周期を勇ましく終えしめ給え。

(詠) [イルモス]我等信者は皆潔淨無玷なる母童貞女を生神女として歌を以て敬虔に崇め讃む。



常に福にして (6調)

小連祷